

## 073 「天の国」(網)のたとえ、天の国のことを学んだ学者

▶「天の国」(網)のたとえ (マタイによる福音書 13 : 47~50) ⑬13 : 44 から続く、イエスのたとえ話

47 また、天の国は次のようにたとえられる。網が湖 (→新改訳：海→異邦人世界を象徴) に投げ降ろされ、いろいろな魚 (→すべての異邦人を象徴) を集める。48 網がいっぱいになると、人々は岸に引き上げ、座って、良いもの (異邦人信者) は器に入れ、悪いもの (異邦人未信者) は投げ捨てる (→「良いもの」は義とされた「羊」、「悪いもの」-新改訳：腐敗したもの」は罪ある「やぎ」)。

49 世の終わりにもそうなる。天使たちが来て、正しい人々 (→異邦人信者) の中にある悪い者ども (→異邦人の偽信者) をより分け、50 燃え盛る炉の中 (=火と硫黄の池等) に投げ込むのである。悪い者どもは、そこで泣きわめいて歯ぎしりするだろう。」←13 : 44 から続く、イエスのたとえ話の終わり  
→網：地引き網。この網は、教会 (召会) 時代に宣べ伝えられる恵みの福音ではなく、大苦難 (患難) の時に、異邦人世界に宣べ伝えられる永遠の福音を象徴している。

▶天の国のことを学んだ学者(一家の主人のたとえ) (マタイによる福音書 13 : 51~52)

51 「あなたがたは、これらのことがみな分かったか。」

弟子たちは、「(何も分っていないのに) 分かりました」と言った。

52 そこで、イエスは言われた。

「だから、天の国のことを学んだ学者 (→天の国について教えを受けた律法学者) は皆、自分の倉から新しいもの (→新約聖書の知識) と古いもの (→旧約聖書の知識) を取り出す一家の主人に似ている。」

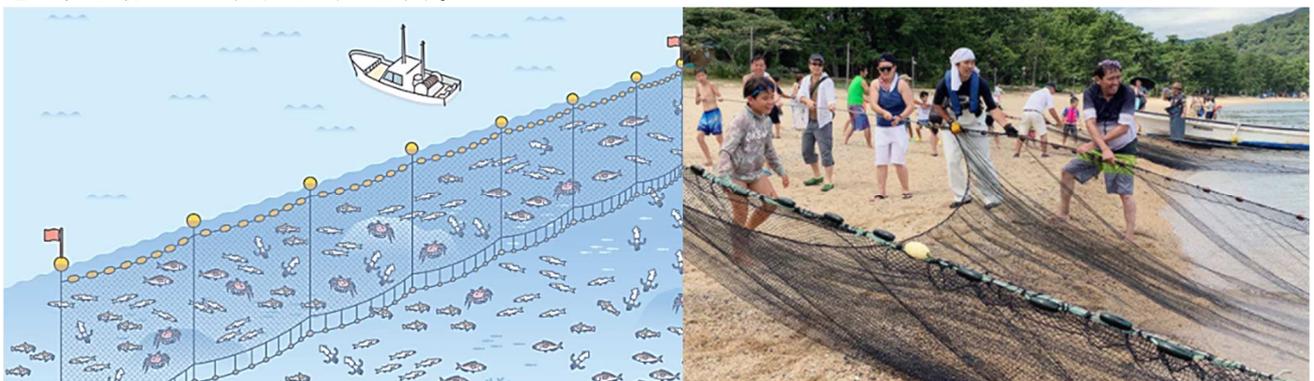
### 【参考】ガリラヤ湖の漁法

①投網 (とあみ) : 岸边や船上から魚がいると思われる水域に人の手で投げ入れて面で魚を漁獲する。



②刺し網 (さしあみ) : 目標とする魚種が遊泳・通過する場所を遮断するように網を張り、その網目に魚の頭部を入り込ませる (→網目に刺す) ことによって漁獲する (下図左)。

③地引網 (じびきあみ) : 陸岸を拠点にして海の沖合に網を張り廻し、網の両端につけた引き綱を引き浜辺に引き揚げて漁獲する (下図右)。



【参考】永遠の火、火の池、火と硫黄の池、火と硫黄の燃える池

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 8 / 聖句等の総数 33250 ]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳)
S マタイによる福音書	18:8 もし片方の手か足があなたをつまずかせるなら、それを切って捨ててしまいなさい。両手両足がそろったまま永遠の火に投げ込まれるよりは、片手片足になっても命にあずかる方がよい。	
S マタイによる福音書	25:41 それから、王は左側にいる人たちにも言う。『呪われた者ども、わたしから離れ去り、悪魔とその手下のために用意してある永遠の火に入れ。』	
S ユダの手紙	1:7 ソドムやゴモラ、またその周辺の町は、この天使たちと同じく、みだらな行いにふけり、不自然な肉の欲の満足を追い求めたので、永遠の火の刑罰を受け、見せしめにされています。	
S ヨハネの黙示録	19:20 しかし、獣は捕らえられ、また、獣の前でしるしを行った偽預言者も、一緒に捕らえられた。このしるしによって、獣の刻印を受けた者や、獣の像を拝んでいた者どもは、惑わされていたのであった。獣と偽預言者の両者は、生きたまま硫黄の燃えている火の池に投げ込まれた。	
S ヨハネの黙示録	20:10 そして彼らを惑わした悪魔は、火と硫黄の池に投げ込まれた。そこにはあの獣と偽預言者がいる。そして、この者どもは昼も夜も世々限りなく責めさいなまれる。	
S ヨハネの黙示録	20:14 死も陰府も火の池に投げ込まれた。この火の池が第二の死である。	
S ヨハネの黙示録	20:15 その名が命の書に記されていない者は、火の池に投げ込まれた。	
S ヨハネの黙示録	21:8 しかし、おくびょうな者、不信仰な者、忌まわしい者、人を殺す者、みだらな行いをする者、魔術を使う者、偶像を拝む者、すべてうそを言う者、このような者たちに対する報いは、火と硫黄の燃える池である。それが、第二の死である。』	